

05

10分で読める
モバイル講演録

Daisuke Yanasawa

mobile
lecture text



仲間と会社を「面白く」する！

柳澤 大輔

仲間と会社を「面白く」する！／柳澤大輔

(10分で読めるモバイル講演録第5巻)

第2部 柳澤大輔×参加者

- ・ Q 1 .. 発想力のある人材にするため、幼少期にすべきことは？
- ・ Q 2 .. 創業時と今、追求している「面白い」の違いは？
- ・ Q 3 .. 柳澤さんが言葉を大切にしている理由とは？
- ・ Q 4 .. カヤックの拠点・鎌倉を盛り上げるため今後したいことは？
- ・ Q 5 .. 自分らしく生きるために必要なことは？
- ・ Q 6 .. サラリーマンから経営者へと転身したきっかけは？
- ・ Q 7 .. 柳澤さんにとって子どもとの存在とは？
- ・ Q 8 .. 柳澤さんにとって「面白い」とは？

目次

はじめに

第1部 柳澤大輔×早川洋平

- ・ Q 1 .. 創立15周年を祝して、もう一度目の目を見せたい企画とは？
- ・ Q 2 .. 「面白い」ことで成功できる人とできない人の違いとは？
- ・ Q 3 .. 個人がメディアを持つ時代、いちばん大切なのは「●●力」
- ・ Q 4 .. 個人でも面白いコンテンツを提供するには？
- ・ Q 5 .. NOと言えない人が、仲間に助けてもらう方法は？
- ・ Q 6 .. 柳澤さんが面白いと思うのは、ビジネス書ではなく「この一冊」

・ Q 7 .. 51の法則

・ Q 8 .. 柳澤流メール術

・ Q 9 .. 柳澤大輔は家庭内でも「面白い」のか

はじめに

あなたは人の話を聞く機会がありますか？

家族、職場、友人など限られた人間関係の中で生きて、彼らと同じ価値観から抜け出せずにいるのではないだろうか。

人の話を聞くことは、あなたの価値観を変えていきます。

価値観を変えることは、あなたの人生を変えていくということです。

同じ毎日の繰り返し、将来への不安、何となくやりきれない倦怠感。

すべてはあなたの「価値観」が生み出しています。

しかし、「人の話を聞く」といわれても、すぐにそれを実行できる人は多くありません。

気軽に講演会に足を運べるようになった昨今でも、「忙しくて講演を聴く時間なんてない」「そもそも自分の住む地域でお目当ての講演がない」という声もよく聞こえます。

そんな忙しいあなたに贈るのが「10分で読めるモバイル講演録」です。

移動時間や待ち時間などのちょっとした時間で、著名人の講演を「読める」ようにポイントを簡潔にまとめました。

また、本講演は加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹ら著名人1000人以上のインタビュー経験を持つ、プロインタビュアー・早川洋平がナビゲートすることでテレビなどでは聞けない著名人たちの本音を聴くことができます。今回の「10分で読めるモバイル講演録」シリーズ第5巻は特別版。

通常のインタビュー現場に、一般の参加者を招待し、ゲストに直に質問できる機会を設けました。

そんな特別版のゲストとしてお招きしたのは、面白法人カヤック代表・柳澤大輔さんです。

サラリーマンを辞めて経営者となった経緯、15年間「面白い」を追求し続けた結果見えてきたもの、今社内で行っている新しいチャレンジなど、柳澤さんが人生で培った価値観や思いを余すところなくお届けしたいと思います。

柳澤大輔(やなさわ だいすけ)

1974年香港生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、ソニー・ミュージックエンタテインメントに入社。

1998年、学生時代の友人と共に面白法人カヤックを設立。鎌倉に本社を構え、鎌倉からオリジナリティのあるコンテンツをWebサイト、スマートフォンアプリ、ソーシャルゲーム市場に発信する。主要事業のほかにもカヤックが運営する飲食店「[DONBURI CAFE DINING bowls](#)」の運営や2009年、ビンボーゆずりを科学したプロダクト「YUREX」の開発のプロデュースにたずさわる。100以上のクリエイティブディレクターをつとめる傍ら、2012年カンヌライオンズ国際クリエイティブティ・フェスティバル、2010年東京インタラクティブ・アド・アワード、2010〜13年Yahoo! インターネットクリエイティブアワードなどWeb広告賞で審査員をつとめ、著書に『面白法人カヤック会社案内』(プレジデント社)、『アイデアは考えるな』(日経BP社)、などがある。ユニークな人事制度(サイコロ給、スマイル給)や、ワークスタイル(旅する支社)を発信し、「面白法人」というキャラクターコピーの名のもと新しい会社のスタイルに挑戦中。

第1部 柳澤大輔×早川洋平

早川 本日は面白法人カヤック代表取締役・柳澤さんにお越しいただきました。本日、随分早くから会場入りされていましたが、いつも現場入りは早いですか？

柳澤 仕事をしたいので、空き時間があると早く行ってしまいうんですよね(笑)。

早川 そうなのですか。話は変わりますが、本年度カヤック創業15周年、おめでとうございます。「カヤック15周年記念サイト」も拝見しましたが、『**ドラゴン桜**』の三田紀房先生やギャグ漫画家・和田ラヂヲ先生といった漫画家に名刺を描いてもらうなど、とても面白いですね。名刺は社員でないで作ってもらえないのですか？

柳澤 抽選に当たった社員限定です。その上、漫画家さんは通常、似顔絵を描きたがらないので、描いてもらえるのはごく一部です。

カヤックは漫画好きが多いので、名刺を描いてもらえただけで「カヤックに入社してよかった！」という社員は多いですね。「ぜひこの漫画家さんを口説いて下さい」というリクエストもよく受け付けます(笑)。

早川 「カヤック15周年記念サイト」では、お蔵入りになった企画もいくつか掲載されていましたが、その中で、もう一度目の目を見せたいと思う企画はありますか？

柳澤 常にありますよ(笑)。しつこくやっているものと、単発のものがあります。「**コンチ**」は公式サイトやゲームアプリを作ったり、キャラクター化したり、しつこくやっているサービスの一つですね(笑)。

早川 しつこさは大事ですよ。

柳澤 しつこく蓄積しているサービスと、単発で終わらせているサービスは分けています。最初から、15年ぐらいかかるだろう、と思ってやっているものもあります。

たとえば、「面白法人」という言葉は15年前からしつこく使い続けています。その結果、「面白い会社」で検索すると検索結果にはカヤックの名前が最も表

示されるようになり(2013年5月時点)、「〇〇法人」と名乗る会社はカヤックのまねをしていると思われるところまできました。

また2007年に「経営理念をつくる人を増やす」という目的のもと、あらゆるサイトの経営理念を検索し、分析を試みました。その結果、「経営理念」で検索しても、検索結果の一番上に表示されるようになりました(2013年5月時点)。

カヤックが、社員全員が覚えられるワンセンテンスの経営理念を提唱してから、同様に短い言葉の経営理念を作る会社がすごく増えました。そういう意味で、世の中の流れを変えたと思います。

今はまた新しいことにチャレンジしています。リクルートの旧・社訓に「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉があります。リクルートの社員はこの言葉が好きの人が多くて、この言葉を聞くと、過去の熱いエピソードが思い返されて涙が出てくるという人もいます。そんな心に残る言葉を15周年記念に作りたくて、今、半年に1度、カヤックに関する熱いエピソードを500個ぐらい募集して、社内で蓄積しています。そのエピソードは「**Koban**」というカヤックが運営する音声投稿サービスにて、声優さんたちがラジオドラマ化してくれます。今それがとても熱いです。

早川 それは社外の人間も聴けますか？

柳澤 社内の合宿でしか聴けないので、社外の方は聴けないですね。エピソードを蓄積したイントラネットを分析して、人が熱くなる時を調査しながら作っています。たぶん、これは10年ぐらいかかるでしょうね。

早川 前回、3年前にインタビューした時、「今後、面白いことに挑戦する企業や個人が増えていく」と予測されていました。実際にそういう人たちが増えていると思いますが、その中で、面白いことをして成功できる人とそうでない人の違いがあれば教えてください。

柳澤 基本的に成功者の条件は同じだと思います。どの成功本や自己啓発本を読んでも核となる部分は一緒で、囲碁の定石のように「やらなくてはならないこと」は全部同じです。しかし、成功できるか否かの違いは「タイミング」だと思っています。

カヤックのような会社は、変わるタイミングを待てるんですね。普通の会社だと役に立たないと思われる人でも、その人の時間軸に合わせて待つてあげられる。

究極的にいえば、仕事の世界では仕事ができるかできないかだけです。その人に仕事の才能があると思えば、その才能が開花するタイミングまで待て

ばいつか必ずできる人になります。そういう意味で、成功できるかできないかは、単純にその人と仕事がマッチしているかだけだと思います。

早川 現代では僕も含めて、好きなことを追求した結果、それが仕事になったり、起業したりという人が増えていると思います。今後もそのような人たちは増えていくと思いますが、彼らが自分の好きなことを仕事にするために必要だと思うことなどありますか？

柳澤 好きなことを仕事にする人が増えるという流れは、放っておいても勝手にそうなると思います。どの働き方が勝者とかそういう話ではなく、1人で働く人が増える、多様性が増えるというだけの話なんですよ。

フリーで働く人向けのサービスやツールは今後増えると思います。この潮流を受けて、新しい働き方に備えた制度を整備しなくてはならないと慌てる会社もありますが、会社がそんな制度を用意する必要なんてないんです。会社は会社員として働きたい人のためのもの。制度を整える暇があったら、会社員として働きたい人を集めたほうがいい。フリーで働きたい人はいくら頑張ったって独立しちゃうんだから、その人たちを無理に困うぐらいなら、彼らに発注した方が早いと思いますよ。

サンプル版はここまでです。続きは、アマゾンにてダウンロードしてお楽しみ下さい。

「仲間と会社を「面白く」する！（10分で読めるモバイル講演録第5巻）」

http://j.mp/1omobile_yanasawa_05

音声版のご案内

本テキストのもととなったインタビュ音声をご購入いただくことができます。テキストを読み、より音声で深く感じたい方は、左記のURLよりダウンロードしてお楽しみください。

URL：<http://ec.kiqtasstore.com/?p=352>

インタビューアー・プロフィール

早川洋平／はやかわ・ようへい
横浜生まれ。

中国新聞記者等を経てプロインタビュアーに。2008年には、インタビュー形式のインタートラジオ（ポッドキャスト）番組「キクマガ」をスタート。加藤登紀子、鳥越俊太郎、渡邊美樹、茂木健一郎、石田衣良ら、130人以上のゲストが出演、年間150万ダウンロードを超える番組となっている。10、11年、横浜美術館「ラジオ美術館」、13年ユニクロCM「ステテコ&リラコ 風と暮らす篇」インタビュアー。

企業・機関・個人のメディアを創出するプロデューサーとしても活動。中核となるポッドキャスト配信サービスは、美術館、大学、病院、出版社、ラジオ局、ジャーナリスト、作家など、広く活用されている。「横浜美術館『ラジオ美術館』」「多摩大チャンネル」「鳥越俊太郎のニュースの職人チャンネル」「本田健の人生相談」「伊藤忠商事『THE 商社マン』」などプロデュース番組多数。

発行日 2013年11月30日第2版

著者 柳澤 大輔

発行者 早川 洋平

執筆協力 三村 真佑美

制作 Textrage 編集部

〒244-0804

横浜市戸塚区前田町 516-1-B-110

MAIL : tr-inquiry@kiqtas.jp

URL : <http://kiqtas.jp/>

Copyright (C) 2013 KIQTAS All Rights Reserved.

本作品の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などすることは、固くお断りいたします。